

# 放課後に集える場所を。 児童クラブ を知ろう

公設民営と民設民営の2つに分けられる放課後児童クラブ。公設民営とは、行政が建物を整備し、運営をNPO法人などが担うもの。それに対し、民設民営では、施設整備も運営も民間で行っています。市内には、公設が23施設、民設が19施設あり、現在1,871人が利用しています。今回は公設民営の「鍋掛なべっこクラブ」と民設民営の「学童クラブ あっとほーむ」で話を聞きました。



さまざまな小学校の子どもたちが放課後に集まる民設学童クラブ。「高学年の子たちにも放課後の居場所をつくり、生まれ育った地域に恩返しをしたかった」と、代表の今井吉伸さんは話してくれました。設立した平成20年ごろは小学3年生までしか受け入れていない施設が多く、当時としては珍しかったそう。自身も4人の子を持つ親なので、「保護者の皆さんと悩みを共有できたり、子どもの趣向なども分かるのが強み」という今井さん。こちらでは、西那須野地区の小学校へ送迎を行っており、各学校の先生とも毎日顔を合わせ、子どもたちの様子などの情報共有ができるています。開設から11年が経過し、当時通っていた子どもたちが学生アルバイト

## 多様なサービスで地域貢献



「学童クラブ あっとほーむ」を立ち上げた今井さん夫婦。4人の職員とともに運営しています。



各学校にバスで迎えに行く今井さん。習い事の送迎にも対応しています。

## 民設民営の特徴

- ・早朝や夜間などの利用が可能
- ・学校からの送迎付き
- ・習い事などへの送迎付き
- ・メールなどによる保護者へのお知らせサービスがある
- ・外部講師による各種教室の開催

※民設民営の特徴は、一例であり各施設によって異なりますので、直接確認してください。

として手伝いに来てくれることも。また、年上の子たちが年下の面倒をみる良い関係性ができていて、進級すると、新しく入ってきた子たちのお世話を買って出られるそう。「子どもたちの成長を感じられるのがやりがい」と語る今井さんの表情は充実感に満ちていました。ふとした瞬間に彼らの成長を垣間見ることができなのが、今井さんにとって一番の喜びとなっています。

## 子に寄り添い成長を見守る

学校が終わると、窓の外から子どもたちの楽しそうな笑い声が聞こえ、「ただいま」と元気いっぱい帰ってきます。

「素直で明るい子が多いんです」と微笑む主任の市川敏子さん。「心も身体も大きなあれという気持ちで接しています」と話してくれました。時には子ども同士のもめ事もあるのですが、互いに納得して解決できるように、子どもの気持ちに寄り添うことを心がけているそうです。「子どもたちが安心して帰ってこ



子どもたちの宿題も支援員がしっかりサポート。



4人の支援員で運営されています。(右から渡部、市川、羽田、櫻井さん)

られる場所にしたい」と話す市川さんですが、学校とも自宅とも違う児童クラブのあり方を模索しており、「家のようにのびのびと過ごしてもらいたい一方で、集団生活のルールは身につけてほしい」と児童クラブならではの悩みも。また、保護者と常に連絡を取り合う中で、「その子の知らなかった一面を互いに共有できたときは、とても嬉しい。これからは子どもたちを見守り、保護者の皆さんと子育てを楽しめたら」と笑顔で話してくれました。



## 公設民営の特徴

- ・学校から近い(学校が公民館敷地内)
- ・利用料が良心的
- ・市が施設整備を行う
- ・小学校との連携が強く、同じ小学校の児童のみが通う